

三年ぶりの離島現地研修に三二名が参加

本誌編集部

事前事後研修にオンラインを活用

第三〇期となる令和四年度の島づくり人材養成大学は、昨年度と同様にオンラインと会場に集まつの研修を組み合わせた「ハイブリッド形式」で開講した。プログラム内容は、前回に引き続き、島づくり活動を実践する「ブレイヤー」と、周囲の関係者が最大の成果をあげることができるようにサポート、コーチングをする「マネージャー」の両方の資質を備えた「ブレイン・グマネージャー」のスキルを身につけることに主眼を置き、講師は平成一九年より本研修に携わる西原弘さん（有限会社サステイナブル・デザイン代表取締役）が務めた。

八月一九日（金）に事前オンライン研修として、参加者の顔合わせとグループワーク（Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用）を実施。その後の一カ

月半は班内の関係づくりのためのミーティングに加え、eラーニング教材を用いた事前オンライン学習に取り組み、一〇月五日（水）～七日（金）の島根県西ノ島町での会場研修に臨んだ。島で実施する研修は三年ぶりで、一都県二六市町村三二名の受講生が集まった（うち一名はオンライン参加）。その後、一月二八日（月）と翌五年二月八日（水）にオンラインによる事後研修を実施、現地研修後の受講生の取り組みをフォローアップした。本稿では、現地研修の模様を紹介する。

自分の目指す島づくりを プランニング

受講生たちは、自分自身の到達点と道標をプログラムの中で考えていく。年齢や職業、暮らしている地域は異なっても、自分たち島をより良くしたいという想いは共通で、寝食をともしながら意見を交わし、支え合うことも本研修のねらいのひとつである。

各自は、「島づくり」を実現するためのプランニングを「〇〇する大使」「はじめの三步」として三日間で考え、発表する。「〇〇する大使」とは、島づくりでの目標の実現にあたって、自分の役割を表明するフォーマット、「はじめの三步」はそれに向けてまず取るべき

行動を明文化するものだ。

初日は、自己紹介と実現したいこと、「○○する大使」をグループ内で発表。西原講師は、目標設定にあたり「達成期日が明確に定義されていること」「達成の成否を○×判定できること」を必須の要件として説明。発表は、島に戻ってから「いちばん協力してほしい人」に向けてプレゼンするつもりで行なう、と助言した。

目標設定や発表に苦闘しながらも、「皆の前で発表することによって、自分の目標を再確認できた（西田さん）」「人前でしゃべる練習とタイムマネジメントの大切さを学んだ（川本さん）」といった声が聞かれた。また、聞き手となった受講生も「熱量が高くとても良い影響を受けた（吾郷さん）」「同じような悩みを持っている方々がこんなにもいることに驚いたが、少し安心しました（小林さん）」「自分もできそうなことを考えて見つけたい（島田さん）」と、良

第30期島づくり人材養成大学プログラム内容・スケジュール

令和4年 8月19日(金)	事前オンライン研修 ・ガイダンス、自己紹介、グループワーク	
9月	・eラーニング教材(Learning Management Systemによる自主学習) ・グループ別ミーティング	
会場研修(島根県西ノ島町)		
	午前	午後
10月5日(水)	七類港から西ノ島へ	☆開講式、ガイダンス ☆ワークショップ① ・○○島○○大使としての目標設定・発表
10月6日(木)	☆島内視察 ・「焼火窯」で風流染め体験 ・摩天崖訪問	☆ワークショップ② ・ダメ出しワーク ・ダメ返しワーク ・目標見直し・発表 ・はじめの3歩ワーク
10月7日(金)	☆島大使発表 ☆総評・修了式	西ノ島から七類港、各地へ
11月28日(月)	事後オンライン研修① ・実践報告、セルフマネジメントのヒント ・人材育成基金助成事業の案内	
令和5年 2月8日(水)	事前オンライン研修② ・実践報告、セルフマネジメントのヒント ・次年度研修の案内	

い刺激になったようだ。「事前オンライン学習の経験を振り返りながら、今日の話聞くことができた（松永さん）」と、限られた研修の時間をより効果的

なものにするために第二九期より導入しているeラーニング教材を評価する感想もあった。

■島づくり人材養成大学とは

地域づくりの核となるリーダーを育成することを目的として、平成4年に始まった日本離島センター主催の短期研修。参加者は全国から集い、これまでに延べ600人以上の修了生を輩出。日常から離れて自分自身を見つめ直し、島人同士で交流し、課題を共有するなかで、「島でやらなくてはならないこと」「自分にできること」を具体化。ワークショップを通じて新しい発想を学び合い、課題解決のための技術を磨く。最終日まで各自が島づくりの具体的な計画を構想し、発表をする。お互いの経験や想いを共有し理解を深めることで、さまざまなヒントや課題解決の糸口を見つめることができる。この研修を機に、世代や地域を超えたネットワークが広く強く結ばれつつある。



開講式で歓迎の挨拶を述べる升谷 健西ノ島町長。

西ノ島の自然・文化に触れる

西ノ島を含む隠岐諸島は地殻変動によって隆起した火山島であり、隠岐片麻岩^{まがん}など日本海形成を物語る地質、景勝地や植生分布、古代から人が築いた文化が評価されユネスコ世界ジオパークに認定されている。

二日目は、西ノ島の魅力を学ぶプログラムとして、島内唯一の窯元「焼火窯^{たくひ}」を訪れ、島の赤土を使って手ぬぐいを染める「風流染め^{ふうりゅうぞめ}」を体験した。顔料を染み込ませた手ぬぐいを海水にさらす工程を経て色素を定着させるもので、受講生たちは思い思いの柄に染め上げた。焼火窯を興した加藤唐山^{とうざん}さん・洋子^{やうこ}さん夫婦は、窯を後世に引き継ぐため、池田八重子さんと伴田さつきさんを地域おこし協力隊として平成三〇年四月から令和二年三月まで受け入れた。彼女たちは任期終了後も島に残り、令和四年一月に焼火窯事業を継承。本研修では、移住と就業をテーマに、ご自身たちの事業継承事例を発表していただいた。

また、西ノ島の西部には海蝕崖が延びる国立公園「国賀海岸^{くにが}」がある。中でも摩天崖^{てんがが}は見どころのひとつで、垂直二五七メートルの切り立った絶壁を前に息を呑む受講生も多かった。

受講生からは「土染めが想像以上に楽しく、摩天崖も想像以上に素晴しかった（長瀧さん）」「島の歴史・文化を知ることができました（中原さん）」といった声のほか、「悪天候時の楽しいアクティビティを探していたので、勉強になりました（今田さん）」と、受講生自身の島づくりのヒントにもなったようだ。

「ダメ出し」「ダメ返し」で

課題明確化

「はじめの三步」を設定するために「ダメ出し」「ダメ返し」ワークを行なった。設定した目標を達成する上で足りないもの、障壁や制約になるものを具体的に三〇個以上シートに列挙する（ダメ出し）。その中から代表的なものをピックアップし、グループ内でシェア。この時、話し手の発言意欲を阻害しないよう聞き手は共感・同調を心掛ける。

その後、ダメ出しで挙げた「ダメ



焼火窯での「風流染め」体験の様子。左から島田乾生さん(福岡県小呂島)、今田歩夢さん(長崎県中通島)、白水 郁さん(福岡県小呂島)。

■島づくり人材養成大学を受講して

この研修では「仲間を増やし、島で活躍する人からヒントを得る」ことを目標としました。また、研修の目的でもある「周囲を巻き込んでいけるプレイングマネージャーの育成」に惹かれ、自分に欠けている能力を養うことも意識しました。

受講するまで離島に11年間住んでいるが、他の離島のことを全く知らない状況でした。勤務先(大崎上島町役場)での受講希望者募集の知らせを見て、一歩踏み出してみようと思い参加しました。

受講をきっかけに、今後の島づくり活動の目的の再考と他の島で活躍する人たちとのつながりができました。日本全国のさまざまな島で、いろいろな分野で活躍している参加者の話を聞いて、それぞれの島の強み、人口構成や産業、問題点、置かれている環境が違うことを知り、自分の島を客観的に見る視点が備わりました。また、自分が活動している大崎上島のことも理解しきれておらず、小さな世界でしか物事を捉えられていませんでしたが、研修を通してアクティブに活動している人たちと意見交換することで、刺激を受け、時には協力し合い、困った時に話を聞いてもらえる関係ができたと思います。

私は会場研修での最終発表で「大崎上島高専数学自主学习をサポートする大使」になることを宣言しました。学生時代に自習支援教材の開発をしていた経験があり、継続して取り組みたいと考えておりましたが、思うように進まず、重い腰が上がらない状況でしたが、受講を機に、また動き出す原動力が芽生えました。現在、町内では仕事のほかに夏祭りの事務局や環境活動員としても活動を行っています。島づくり人材養成大学で出会った皆さんに負けないよう、今後も引き続き大崎上島を盛り上げていきます。

(松永和樹・広島県大崎上島町)

要因」に対してグループ内で助言をし合う(ダメ返し)。ダメ要因を解消するため「条件を変えるための行動をとる」「代替案を探す」「基準を変える」など、自由な発想のもとアドバイスを出し合うワークで、会場は大いに盛り上がった。「いろんな職種の方がいらっしゃるので、それぞれの視点からアドバイス

をいただけてとても勉強になりました(佐藤さん)」「ダメ出し、ダメ返しは、問題の本質にせまる、有効な手段だと思いました(森脇さん)」「ダメ出しワークを通じて、自分の班のメンバーが仲間になったように感じました(田中さん)」と、受講生はポジティブな効果を実感したようだ。

最終日、三日間の現地研修を通して、自身の課題を明確化し、それを乗り越え、ひっくり返す方法を模索してきた受講生たちは、自分と島のなりた姿を「〇〇する大使」、それを実現するための具体的な行動を「はじめの三歩」として言語化し、発表した。初日の島づくりの方向性を大きく転換した受講



第30期修了生の集合写真。

第30期島づくり人材養成大学受講者(32人)と「島大使」一覧

自治体名・島名	氏名	島大使
東京都大島町・大島	吉本浩二	青い芝生を増やす大使
東京都神津島村・神津島	中村 圭	住宅創造・よい暮らし作りをする大使
東京都八丈町・八丈島	新井誠人	八丈島を伝える・繋ぐ大使
新潟県粟島浦村・粟島	佐藤恵利果	特産品を開発する大使
新潟県佐渡市・佐渡島	宮嶋麻生	みんなで楽しく子育てする大使
新潟県佐渡市・佐渡島	小森美紗	島民を幸せにする大使
島根県隠岐の島町・島後	水間航多	ビールで丸ごとプハッ!する大使
島根県隠岐の島町・島後	森脇芳史	人材育成推進する大使
島根県海士町・中ノ島	五島典英	離島で不動産市場を形成する大使
島根県西ノ島町・西ノ島	水城慶子	公民館の図書館を利用する大使
島根県知夫村・知夫里島	吾郷 均	100人委員会を実現する大使
広島県三原市・佐木島ほか	嶋田泰三	釣りスポット紹介する大使
広島県大崎上島町・大崎上島	松永和樹	高専数学自主学習を支援する大使
香川県坂出市・櫃石島ほか	加藤由梨	まずは住民の話をさく大使
愛媛県上島町・佐島	田中克典	佐島の魅力を届ける仲間を増やす大使
愛媛県松山市・中島	藤本周一	緑(園地庭木 etc.)の管理による生活空間を快適化する大使
愛媛県宇和島市・九島	長瀧 茂	観光ビジネスモデルの聖地にする大使
福岡県福岡市・小呂島	島田乾生	心のよりどころにする大使
福岡県福岡市・小呂島	白水 郁	島の魅力を広める大使
長崎県対馬市・対馬島	針谷広己	リアルなしまぐらしを伝える大使
長崎県対馬市・対馬島	小林 久	人口をふやす大使
長崎県新上五島町・中通島	堀江一誠	旬の魚を宣伝する大使
長崎県新上五島町・中通島	今田歩夢	中通島の陸海食人を案内する大使
長崎県五島市・福江島	泉井美由紀	あれこれを撮って書いて伝える大使
長崎県五島市・福江島	福島まゆみ	福江島つないで花いっぱいにする大使
熊本県天草市・牧島	楯崎智広	天草・御所浦移住定住サポートする大使
鹿児島県十島村・小宝島	濱崎たみ子	おもてなし大使でパパラギ新聞づくりをする大使
鹿児島県瀬戸内町・奄美大島	手嶋祥大	いらないものをいる人に届ける大使
沖縄県伊是名村・伊是名島	前川愛理	伊是名島をつなぐ島の島にする大使
沖縄県渡嘉敷村・渡嘉敷島	西田大河	閑散期をなくす大使
沖縄県久米島町・久米島	中原大二郎	課題解決の取組をマネジメントする大使
沖縄県与那国町・与那国島	川本恵美	与那国を大好きな人があつまる交流拠点をつくる大使

■第30期島づくり人材養成大学を終えて

今回は29期に引き続き、島づくりの「ブレイン・グマネージャー」を目指すというテーマ設定で、事前オンライン研修(1回)、会場研修(3日間)、事後オンライン研修(2回)、上記期間中eラーニング学習受講と、オンライン・リアルを併用したハイブリッド型としました。

例年の受講者数が20人前後のところ、今回は申し込み多数で32人の受講となる一方、現地西ノ島での体験・視察プログラムや移動時間もあり、29期(東京開催)に比べてワークの時間が少なくなることが見込まれました。さらに、通常4～5人の班でグループワークを行なってきましたが、今回は各班6～7人と人数が増える中で、しっかりゴールまでたどりつけるよう、新たに次の4点の運営上の工夫を試みました。

- ・①事前オンライン研修～会場研修、②会場研修中、③会場研修～1回目の事後オンライン研修、④1回目の事後オンライン研修～2回目の事後オンライン研修の4期にわけて、受講生が班長役を交代で務める
- ・①の期間に、各班で日程調整をしてオンラインミーティングを1回以上実施し、予め各人の受講目的を明確化するとともに、受講者相互のコミュニケーションと人間関係構築を図る
- ・日本離島センター職員がファシリテーター役として各班を担当し、現地研修中のみならず、事前オンライン研修～2回目の事後オンライン研修までの全期間にわたり進捗をフォローする
- ・現地研修中は、島前地域で受け入れを実施している「大人の島留学生」がサポーター役として各班に加わり、班長とファシリテーターを補佐しながら、グループワークに参画する

各班をひとつの小組織として、メンバーが役割を分担し、自分自身の成果にフォーカスしながらチーム全体としても自立的に前に進めるようになることを意図したものです。結果として、例年にも増して、各班内および全体のコミュニケーションが円滑になり、より受講生の自主性が引き出されたのではないかと思います。現地研修最後の発表において、1人ひとりの発表時間の計測管理を一切行わずに、時間どおりに進行することができました。

受講生の自助努力はもちろんのこと、サポーター役として参画いただいた「大人の島留学生」、開催地西ノ島町役場の皆さまのご協力・ご尽力あつてのことと、心より感謝申し上げます。

(西原 弘・第30期島づくり人材養成大学講師)



グループワークの様子。左から吾郷 均さん(島根県知夫里島)、小林 久さん(長崎県対馬島)、松永和樹さん(広島県大崎上島)、小森美紗さん(新潟県佐渡島)。

今回は上島町で開催

現地研修の開講にあたっては、ソーシャルディスタンスの確保、検温・消

生や、当初の目標をより詳細なものにブラッシュアップした受講生など人それぞれの達成に向けた具体的な課題を一つずつ解消しようとする姿勢は、どの受講生からも感じられた。

毒の徹底、毎朝の抗原検査の実施など新型コロナウイルス感染症対策を講じた。幸いにも大きなトラブルはなく、実りのある研修が開催できた。これも西ノ島町役場をはじめ、同町観光協会、隠岐広域連合の皆様などのご協力があつてのことである。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

第三期の島づくり人材養成大学の会場研修は、愛媛県上島町で開催する予定である。

(奥村)